

「白川」の高接ぎ更新樹の摘芯による早期結実法

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

研究のねらい

普通温州「白川」は、青島温州の殊心胚実生で、樹勢が強く新梢生長が旺盛であるため、高接ぎした場合早期結実法が難しい。

そこで、高品質果実の早期安定生産技術を確立するため、新梢生長を抑制して、早期結実法させるための接木後の枝梢管理法及び接木時期を検討した。

研究の成果

1. 摘芯後の残葉数を多くする（弱い摘芯）ほど、新梢発生は多く新梢長も短くなる。
2. 4月の接木では、1回だけの摘芯より2回摘芯した方が、新梢発生は多く、新梢長は短い。
3. 2回摘芯では、1回目（6月上旬）に14枚程度の弱い摘芯をした後、さらに、7月下旬に20枚程度に摘芯したほうが、新梢発生が多く新梢長も短くなる。
4. 5月接ぎでは、4月接ぎに比べて、新梢長は短くなり、その発生本数も少なくなる。また、2回摘芯を行うと、1回摘芯より新梢発生が少なくなる。
5. 着花するまでは生育が旺盛なので、摘芯による管理とともに、剪定は枝の露引や間引きを主体にし、できるだけ繰り返し剪定は行わないなどの注意が必要である。

表1 摘芯方法の違いによる新梢の発生状況 4月下旬の接木

摘芯残葉数		新梢発	新梢	総伸長量	平均長	節間長
1回目	2回目	生本数	発生率			
6~8枚	-枚	1.0本	13.4%	100.8cm	66.9cm	2.32cm
9~11	8	1.2	14.2	62.0	46.9	2.39
12~14	8	1.7	20.7	79.6	37.1	2.10
9~11	-	1.6	15.7	91.6	50.0	2.26
12~14	10	2.3	22.0	112.6	42.8	2.07
12~14	-	2.0	14.8	92.1	49.3	2.10

表2 接木時期と摘芯方法の違いによる新梢及び着花状況

接木時期	系統	処理区	新梢発生本数(本)	総伸長量(cm)	平均長(cm)	葉数(枚)	節間長(cm)	翌年の~		
								直花	有葉花	新梢
4月下旬	白川	A	1.5	111.0	66.6	24.4	2.74	0個	0個	21.1本
		B	1.5	84.0	56.2	20.0	2.81	0	0	15.2
		C	1.9	129.4	81.6	31.3	2.61	0	0	29.4
		D	1.9	142.6	87.3	33.0	2.68	0	0	27.4
	青島	A	2.3	136.0	55.7	24.0	2.28	0	2.4	24.4
		B	1.1	66.9	62.4	24.5	2.56	0	0.9	14.1
		C	2.0	148.8	85.2	34.8	2.43	2.0	10.2	19.4
		D	2.5	150.5	62.3	25.2	2.44	0.1	4.8	21.9
5月下旬	白川	A	1.1	66.4	55.2	20.7	2.64	0	0	11.2
		B	0.7	23.7	35.9	13.8	2.64	0	0	6.0
		C	1.1	64.3	56.4	21.7	2.60	0	0	14.8
		D	1.0	53.7	55.5	20.3	2.72	0	0	10.3
	青島	A	1.1	66.1	53.3	19.9	2.64	0	0.2	14.1
		B	1.1	64.8	51.2	18.2	2.81	0	0	15.6
		C	1.6	87.6	59.5	23.0	2.54	0.3	1.0	17.6
		D	0.8	36.1	50.9	20.9	2.39	0	1.2	8.4

処理方法はA：1回目15枚に摘芯後、夏芽発生時に10枚に摘芯、B：1回目15枚摘芯後、夏芽5~10mm伸びた時期に10枚に摘芯、C：1回目15枚摘芯、D：1回目10枚摘芯

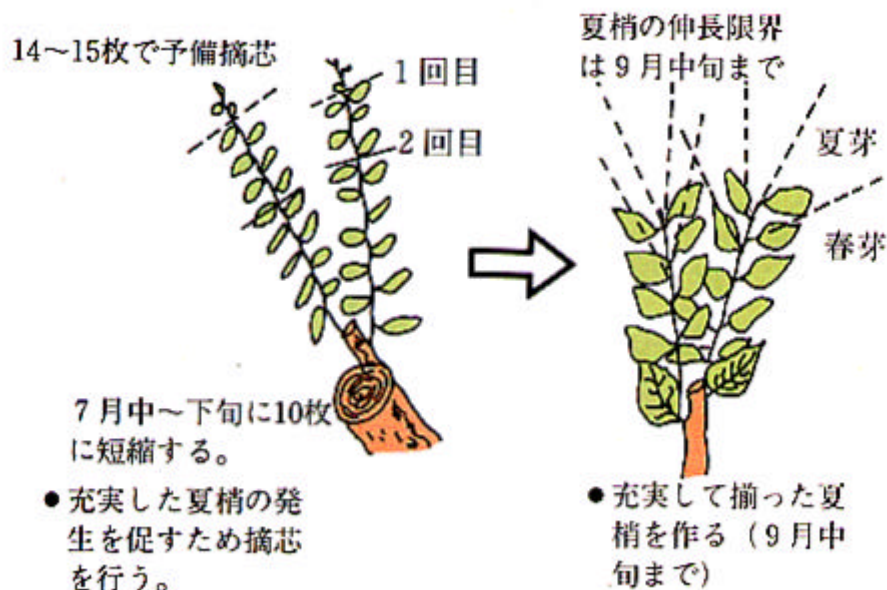


写真 摘芯の方法

農業の新しい技術PDFファイル版(熊本県農業技術情報システム)